

海路の重要拠点、見島

「ほっとやまはく」
タイム⑧



・6^キ、東西約2・5^キの大きさです。島の北東側に宇津、南側に本村という二つの集落があり、その他は山地や丘陵に開かれた田畑が広がっています。11月は本村地区、12月は宇津地区を回り、文化遺産を調査しました。

船の旅

県立山口博物館では今年度、中世の港や交通についての調査研究を進めています。その一環として、日本海に浮かぶ山口県最北端の島、見島の調査を行いました。

見島へは、萩港から高速船で約1時間です。初めて見島行きに船に乗った11月のこと。午前9時ごろに萩を出航するときには、海は穏やかで、見島方面には虹がかかり、まるで調査を歓迎してくれているようでした。

しかし、約10分後、冬の日本海に出ると、波や風が強くなり、船は大きく揺れ始めました。甲板では、船の高さを超える波が押し寄せてきます。揺れに合わせて、体が浮き上がり、放り出されないように必死にしがみつ

しかありません。酔い止め薬を飲んでいたものの、薬が効くまでの間に船酔いになってしまいました。冷たい風が吹き、さらに雨も降り始めます。しかし、船酔いになっているため、暖かい船内に戻る気にはなれません。気分が悪いまま、甲板で耐えること約50分。もう限界だ、と思った瞬間、見島本村の湾に入り、ふらふらになりながらも、なんとか見島に上陸できました。

ジーコンボ古墳群

見島を代表する遺跡といえば、ジーコンボ古墳群①。本村の東側海岸沿いに石で造られた約200基の積石塚が並んでいます。1960年から3カ年にわたり実施された学術調査の結果、多くの武器や革帯の飾りが見つかりました。奈良時代から平安時代初めにかけて、朝鮮半島との国境を警備するために駐留した防人（さきもり）の墓とも考えられてい

ます。また、ジーコンボとは、地元では「爺」「婆」のことを「じいこう」「ばあこう」ということから、祖先の意味だという説もあるようです。積石塚の中からは複数人の人骨が見つかることもあり、何世代にもわたって人々が葬られたとも考えられています。

見島の文化遺産

帰りの萩行きの船が出るまで約4時間。見島ふれあい交流センターで貸し出してもらった電動自転車で島内を大急ぎで回りました。11月には1387（至徳4）年の鰐口（わにぐち、寺社の軒先で参拝時に綱で打ち鳴らす金属製の道具）や江戸時代の多くの石造物がある見島神社②、1413（応永20）年に見島の地頭山田広貞・下神宗重の寄進した釣り鐘がある讃岐坊③、12月には山口県最北端の長尾の鼻（北灯台）④や106（応永13）年の鰐口のある宇津観音堂⑤などを調査しました。

見島の文化遺産は、海に近い場所や海への眺望が良い地点に位置しています。朝鮮半島との関係や北前船の寄港地など、海路の重要拠点である見島の歴史の一端を感じることができました。

阿部来（考古担当学芸員）

（終わり）



山口県最北端、長尾の鼻

見島ジーコンボ古墳群



宇津観音堂から萩方面を望む

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。



見島の文化遺産位置図